

2022年度

# 事業報告書

社会福祉法人 恭生会

## 基本理念

『私たちは「愛」と「和」の精神を大切にします。そして、利用者さまの人権を尊重し「地域の皆さまに信頼され、愛される施設」を目指します』

## 社会福祉法人 恭生会のミッション（社会的使命）

『恭生会サービス提供圏域に住む方々の福祉の向上に積極的に関わり、地域社会の幸福度を向上させます』

社会福祉法人は、旧社会福祉事業法にに基づく規制や監督を受けつつ、主として国からの措置事業を担う公共的な性格を有する法人として機能してきました。以来長きにわたり、社会福祉事業の主たる担い手として歩んできました。

しかし、人口構造の高齢化、家族や地域社会の変容に伴い、多様化する福祉ニーズへの対応が重要な政策課題となってきました。そこで、平成12年の介護保険法の施行、同年の社会福祉法の成立により、サービスの利用の仕組みを措置から契約に転換するとともに、株式会社やNPOなど多様な供給主体の参入により、利用者の選択の幅を広げ、事業者の効率的な運営を促し、サービスの質の向上と量の拡大を図る政策がとられました。

こうした中で、社会福祉法人の位置づけは大きく変化しております。社会福祉法第24条では、社会福祉法人の本旨として経営基盤の強化やサービスの質の向上、事業経営の透明性の確保を通じて、社会福祉事業の中心的な担い手であるとともに、地域における多様な福祉ニーズにきめ細かく対応し、既存の制度では対応できない人々を支援していくことを位置づけています。

そして、平成29年度の社会福祉法改正では、社会福祉法人のあり方として他の事業主体では対応できない様々な福祉ニーズを充足することにより、地域社会に貢献していくことが求められています。

これらの状況を踏まえ、社会福祉法人 恭生会といたしまして「社会福祉法人 恭生会のミッション（社会的使命）を設定いたしました。また、令和3年4月から令和8年3月を一期とした法人全体の中長期事業計画を策定いたしました。

具体的には、以下の内容です。

1. 法人内連携強化、その後サービス提供圏域連携強化
  - ① 各施設の役割の明確化
  - ② 法人共通イベントの開催
2. 法人サービス提供圏域内の生活課題支援（ソーシャルワーク機能）強化
  - ① 生活課題抽出機能・支援機能の強化
  - ② 社会貢献事業拠出金の拠出先の見直し

### 3. 地域拠点施設（事業所）化の推進

- ① 各職種スキルの向上
- ② 相談先としての想起順位の向上
- ③ 地域に信頼される施設づくり
- ④ 地域の中での同業他社とは違う先駆的な取り組みの推進

### 4. 感染症・災害への体力強化

- ① 感染症対策の強化
- ② 業務継続に向けた取り組み強化

これらの取り組みを、各年度事業計画に反映させ、中長期的（５年から１０年後）に達成できるように、社会福祉法人 恭生会として取り組んでまいりました。

## I 概要

<2022年度取り組み評価>

### 全体報告

新型コロナウイルス感染症が発生してから、和朗園のサービスの在り方も大きく変化する事となりました。大阪府下の感染状況を考慮し、感染対策を重視しつつ、利用者への支援を行うこと、同時に状況に合わせた感染対策の強化と制限の解除というバランス調整も必要とされます。

新年度には新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が2類から5類へ変更されますが、感染がなくなるわけではありません。引き続き感染対策への配慮はしながらも、中長期事業計画で定めている、私たち和朗園の社会的使命「地域社会の福祉を向上し、その信頼をもって競争力を高め、総合介護福祉施設 和朗園の価値を高める」ということを下記の取り組みで実現していきます。

- ①社会福祉法人の本旨を忘れず、社会に対し貢献していくこと。
- ②たとえ重度な要介護状態となっても、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるような支援体制を構築する。
- ③在宅での生活維持が困難な方に対し、施設入所により、質の高い入所生活を提供する。
- ④法人としての競争力を向上させ、税金が投入されている施設資源を適正に維持する。
- ⑤経営組織のガバナンスを強化し、事業運営の透明性を向上させる。

今年度は、前年度に引き続き、和朗園の社会的使命達成のために次の具体的目標に取り組みました。

### <目標>

#### 1. 前年度未達成課題の継続的取り組み

前年度計画に掲げた各部署・委員会の未達成課題に対し、今年度も継続して取り組み、中長期事業計画達成のためのPDCAサイクルを回します。

→ 各部署の事業計画に位置付けられた目標について、達成状況を評価しています。未達成の課題に関しては、次年度も引き続き取り組んでまいります。

#### 2. 事業所間や事業所内連携のとれた複合的サービスの提供

具体的には、グループ内訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所等とのICT活用による医療・介護連携強化に取り組み、医療ニーズに対する対応力の向上に取り組んでいきます。

→ ICT情報共有ツールである「メルタス」、電子カルテ「ブルーオーシャンシステム」を活用し、グループ内の事業所と情報の共有を図りました。

### 3. 困難ケース(複合的課題ケース)の対応力強化

具体的には、複合的課題(貧困・介護・障がい等の複合的な課題のある事例)の対応力を強化するために、OJT・OFF-JT環境整備やフォロー体制の構築により、職員の援助スキルの向上を図ります。

→ 包括支援センター、CSW など相談窓口からの依頼には和朗園全体として取り組み経験を共有することで対応力の強化に取り組みました。法人の社会貢献事業など社会資源を活用し、総体的に支援した事例もあります。

### 4. 認知症ケアチームの地域活動・高度認知症ケア

認知症介護指導者や実践リーダー・実践者とともに、最新の認知症ケア援助技術等を活用し認知症ケアの質の向上に取り組みます。そしてその実践のノウハウ等について、地域へ還元していきます。

### 5. 働いてみたいと思えるような魅力的な教育制度の再構築

職員自身の成長を実感できるような、教育制度の再構築を目指します。具体的には、等級制度とリンクした教育制度の導入を開始しました。引き続き実施して、現在のプリセプター制度等に上乗せした教育制度全体の再編を目指します。

→ 役職者向けに外部講師を招いてコーチング研修を1対1や少人数で定期的に開催し、新たな知識習得や課題解決にむけての取り組みを行いました。

### 6. 予算管理の徹底

介護人材不足及び処遇改善加算等による人件費高騰に対し、職員定数管理を通して適正配置及び適正人件費率を目指します。

→ 介護職員の確保が厳しい状況が続いていますが、特定技能実習生を採用することで体制の確保をしています。

### 7. 広報活動の強化

質の高い職員を確保していくために、ワークライフバランスの推進や、和朗園での様々な取り組みについて、学会発表や広報等の活動を通して、和朗園の知名度向上を目指します。そして、職員採用につながることを目指します。

→ インスタグラムを通じ情報の発信を継続し、ホームページも新たに改訂しました。

## II 利用者状況

### 1. 介護度別状況

特別養護老人ホーム (延べ人数)

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	2022年	2021年	差異
--	------	------	------	------	------	-------	-------	----

						度合計	度合計	
4月	30	55	618	1152	899	2754	2652	102
5月	31	61	678	1273	962	3005	2844	161
6月	30	60	632	1229	965	2916	2846	70
7月	31	62	633	1275	1046	3047	2993	54
8月	31	93	678	1161	1067	3030	2917	113
9月	30	90	683	1112	1038	2953	2890	63
10月	31	93	728	1136	1030	3018	2975	43
11月	30	90	684	1160	993	2957	2845	112
12月	31	93	664	1182	1037	3007	2977	30
1月	31	68	676	1152	998	2925	2982	-57
2月	28	56	599	988	841	2512	2659	-147
3月	31	81	739	1071	964	2886	2749	137
合計	365	902	8012	13891	11840	35010	34329	681

昨年対比 101.9 % 平均介護度 4.0

#### ターミナル期の取り組みについて

特養は、終身的施設であるということから、「ひとりひとりにあったケア」への取り組みが早期に出来るように、入所時に「心身の情報」の聞き取りを開始しました。介護職員と情報を共有し、早期の個別ケアが出来てきていると感じています。

また、看取り期に入った利用者のケア計画策定のため、医師の見解を基に家族との話し合いの場を設け、各職種からの立案により介護計画を作成し、他職種と連携しながらケアを行っています。看取りの勉強会も行い、他職種と価値観の共有に努めてきました。今後も各関連機関、家族と連携を図りながら実施していきます。

#### 特養3F

1. 「です・ます」を基本とし、言葉遣いに気を付けて、語調が優しい声掛けを行います。  
そして、ご利用者の笑顔を大切にされた接遇を考えて実行します。  
⇒研修に参加して職員の理解を深めています。またフロアミーティングでも接遇の話し合いを行ない、継続して取り組んでいます。
2. ご利用者のこれまでの人生にも目を向けて、認知症があっても、終末期になっても、その人らしさを忘れずに、ご利用者やご家族の気持ちを尊重し寄り添ったケアを行います。  
⇒ご本人やご家族からの聞き取りを行い、職員間で情報共有を行っています。認知症や終末期介護については、研修を通じて職員のレベルアップ向上を図っていますが、まだまだ向上できるように積極的に研修に参加して、質の向上に努めます。
3. 安全に配慮して、ご利用者が過ごしやすく心地良い環境を作ります。  
⇒リスク委員会を中心に事故の検証を行い、安全に配慮した環境を作り取り組んでいます。  
移乗チームを作り、安全に介助できるトレーニングを実施しています。

**特養2F**

1. 笑顔を大切にして、ご利用者の想いに寄り添います。  
⇒業務改善を行ない、利用者様の生活リズムを大切に出来る様に取り組みました。まだまだ足りない所がありますので、継続して取り組みます。
2. チームワークを大切にして、ご利用者の立場で考え行動し、関わっていきます。  
⇒フロアミーティングや研修を通じて、職員の質の向上に努めました。継続して取り組みます。
3. 目線を合わせて、丁寧な言葉遣いと語調に気を付けます。  
⇒勤務中の職員同士の声掛けや、定期的にフロアミーティングで話し合いを行ない、接遇について考える機会を作り、向上に努めています。

**ショートステイ** (延べ人数)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2022年度 合計	2021年度 合計	差異
4月	0	0	34	25	24	4	3	90	109	-19
5月	0	0	44	82	57	13	16	212	233	-21
6月	3	12	46	79	45	14	11	210	228	-18
7月	6	4	42	71	53	18	18	212	170	42
8月	3	27	26	69	58	20	10	213	15	198
9月	0	4	52	71	65	14	9	215	168	47
10月	0	2	56	51	57	12	13	191	207	-16
11月	0	8	61	43	43	1	2	158	244	-86
12月	0	2	60	54	66	7	8	197	255	-58
1月	0	0	78	57	71	12	12	230	228	2
2月	0	0	58	25	47	22	6	158	129	29
3月	0	0	72	41	67	17	8	205	0	205
合計	12	59	629	668	653	154	116	2291	1986	305

昨年対比 115.3%      平均介護度 2.2

**デイサービス** (延べ人数)

	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2022年度 合計	2021年 度合計	差異
4月	76	173	645	312	175	60	35	1481	1365	116
5月	63	196	608	273	165	61	35	1403	1371	32
6月	75	196	608	243	162	89	38	1414	1384	30
7月	81	196	618	249	159	88	44	1435	1551	-116
8月	75	189	557	242	214	87	37	1401	1633	-232

9月	67	230	532	229	235	95	41	1429	1618	-189
10月	68	243	573	267	268	90	28	1537	1580	-43
11月	59	168	436	172	189	79	23	1126	1685	-559
12月	69	202	573	213	229	125	35	1446	1613	-167
1月	57	181	514	175	199	89	28	1243	1369	-126
2月	66	185	543	190	217	104	39	1344	1309	35
3月	84	233	570	219	252	112	62	1532	1443	89
合計	840	2392	6777	2784	2464	1079	445	16781	17881	-1090

昨年対比 93.8% 平均介護度 1.6 (要支援含む)

地域でその人らしい生活を継続する為に、デイだけでなく施設機能を柔軟に活用してのサービス提供や、一人ひとりに合わせた個別的な取り組みを行いました。昨年引き続き新型コロナウイルスの影響が利用者数に表れています。

グループホーム (延べ人数)

	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	2022年度 合計	2021年度 合計	差異
4月	30	120	230	60	60	26	526	530	-4
5月	31	139	248	62	62	0	542	543	-1
6月	30	150	240	60	60	0	540	540	0
7月	31	115	248	93	62	0	549	556	-7
8月	31	99	217	93	62	31	533	547	-14
9月	0	150	180	60	90	60	540	540	0
10月	0	155	155	93	62	93	558	558	0
11月	0	177	150	115	13	82	537	499	38
12月	0	155	155	210	0	37	557	536	21
1月	0	155	155	217	0	31	558	558	0
2月	0	112	168	196	0	28	504	485	19
3月	0	127	186	195	0	31	539	558	-19
合計	153	1654	2332	1454	471	419	6483	6450	33

昨年対比 100.5% (利用延べ人数) 平均介護度 2.3 (昨年度 2.1)

利用者は家庭的な雰囲気の中で、認知症ケアの取り組みを行う事により、おだやかに過ごされています。各種加算も算定しています。

ケアプランセンター (延べ人数)



	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	2022年度 合計	2021年 度合計	差異
4月	10	22	71	26	17	5	5	156	147	9
5月	10	23	68	29	13	5	7	155	151	4
6月	9	24	62	29	13	7	3	147	150	-3
7月	9	19	64	29	15	9	3	148	139	9
8月	7	18	56	29	14	8	4	136	140	-4
9月	9	17	59	31	18	11	4	149	138	11
10月	8	19	65	35	17	10	6	160	152	8
11月	7	17	60	31	18	10	6	149	149	0
12月	7	16	57	34	19	10	7	150	151	-1
1月	7	17	50	32	18	7	5	136	148	-12
2月	8	16	49	28	17	12	7	137	149	-12
3月	9	15	54	31	21	6	6	142	157	-15
合計	100	223	715	364	200	100	63	1765	1771	-6

昨年対比 要支援率 18.3% (-3%) 要介護率 81.7% (+3.0%)

担当総プラン作成数は月により対応数が大きく変わり、最終やや減となりました。昨年に続き要介護状態の方の担当件数割合を増やし地域の在宅支援拡大と確実な諸加算算定に努めた結果、収益効率はさらに改善しました。

ヘルパーステーション (延べ人数)

	派遣回数		
	2022年度	2021年度	差異
4月	1021	1118	-97
5月	1125	1050	75
6月	1186	1046	140
7月	1161	1054	107
8月	1127	1074	53
9月	1154	1058	96
10月	1138	1067	71
11月	1050	1100	-50
12月	1105	1002	103
1月	942	994	-52
2月	1063	961	102
3月	1182	1007	175

合計	13254	12531	723
----	-------	-------	-----

昨年対比 105.7%

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、訪問回数を調整する必要場面があります。

### ケアハウス (延べ人数)

	延べ人数		
	2022年度	2021年度	差異
4月	894	900	-6
5月	930	930	0
6月	878	900	-22
7月	930	924	6
8月	927	924	3
9月	900	878	22
10月	930	907	23
11月	874	867	7
12月	911	888	23
1月	930	899	31
2月	822	813	9
3月	868	906	-38
合計	10794	10736	58

昨年対比 99.5%

職員と入居者で生活支援計画を立案し、一人ひとりが年間を通じて達成できるようサポートさせていただきました。また、ケアハウスでの生活を少しでも長く継続していただけるよう、日常のレクリエーションや健康体操などへの参加を促して参りました。

さらに入居者の高齢化が進んできている状況ですので、買い物支援やお薬の管理などの有料サービスを活用する方が増加しました。

## 2. 機能訓練延べ人数・加算状況

特別養護老人ホーム

	2022年度				
	個別訓練	機能訓練加算	科学的推進	経口維持	自立支援
4月	232	2746	99	48	26
5月	362	3006	101	49	28
6月	295	2917	101	50	26

7月	292	3035	100	51	26
8月	421	3001	100	50	26
9月	348	2953	100	51	26
10月	329	3021	102	53	22
11月	348	2899	100	55	0
12月	325	2995	99	56	0
1月	223	2900	98	54	0
2月	240	2686	98	53	0
3月	366	2889	102	56	0
合計	3781	35048	1200	626	180
前年度合計	2010	34308	802	587	124
差異	1701	-212	398	39	56

短期入所生活介護

	機能訓練体制 加算	個別機能訓練 加算
4月	110	31
5月	268	36
6月	267	33
7月	264	26
8月	252	42
9月	276	53
10月	250	43
11月	207	49
12月	226	35
1月	275	38
2月	201	23
3月	268	51
合計	2864	460
前年度合計	2159	428
差異	705	32

通所介護

	2022年度
--	--------

	個別訓練	集団訓練	個別機能訓練 加算Ⅰイロ	個別機能訓練 加算Ⅱ科学的	運動機能向上 加算
4月	414	803	1198	130	44
5月	444	708	1141	134	44
6月	386	764	1102	130	50
7月	354	814	1158	134	51
8月	348	793	1129	132	46
9月	392	743	1112	137	49
10月	410	824	1235	143	53
11月	414	449	860	141	53
12月	449	705	1142	131	51
1月	355	642	995	134	50
2月	235	534	1080	135	48
3月	376	836	11185	142	54
合計	4577	8612	14226	1623	593
前年度合計	5395	8885	14226	947	607
差異	-818	-273	-889	676	-13

・加算変更により集団に大集団を算定できなくなりました。

#### 生活機能連携向上加算

	2022年度				
	特養	ショート加算 Ⅰ	ショート加算 Ⅱ	デイ	グループホーム
4月	99	2	8	174	18
5月	101	4	11	177	18
6月	101	7	13	180	18
7月	100	14	14	185	18
8月	100	10	17	179	18
9月	100	13	16	185	18
10月	102	3	15	196	18
11月	100	0	20	193	18
12月	99	0	11	182	18
1月	98	0	15	184	18
2月	98	0	13	183	18
3月	102	0	15	196	18
合計	1200	53	168	2214	216
前年度合計	1199	42	146	2230	216
差異	1	9	22	-16	0

3. 入所者（特別養護老人ホーム）の身体状況（2023. 3. 31 現在実数）

区分			実数	区分			実数	
移動	自立	自立歩行	6	排 泄	昼間	便所	自力で可能	3
		杖等の歩行補助 具使用	6				一部介助	39
	一部介助	14	全部介助				8	
	全部介助	74	ポータブル 便器			自力で可能	0	
食事	自己で可能	52				一部介助	0	
	一部介助	12				全部介助	0	
	全部介助（胃ろう）	36	おむつ使用		49			
入浴	自己で可能	0	夜間		便所	自力で可能	3	
	一部介助	49				一部介助	24	
	全部介助	51				全部介助	0	
着脱衣	自己で可能	0			ポータブル 便器	自力で可能	0	
	一部介助	44				一部介助	0	
	全部介助	56		全部介助		0		
褥創者数			3	おむつ使用		73		
看取り			0					
認知度	重度	57	トイレ誘導実施者数				50	
	中度	23						
	軽度	20						

III 会議・部会組織

	会議名	開催日	参加職種
--	-----	-----	------

所属長	所属長運営会議	第4木曜日	各事業所より主任以上職員	
	衛生委員会	第2月曜日	産業医、衛生管理者、事業統括者、職員代表	
	教育委員会	内部研修	奇数月 第2木	各事業所委員
		外部研修		
		新人教育		
	リスクマネジメント委員会	事故防止	第2木曜日	
		身体拘束廃止		
	行事委員会	行事	第4木曜日	
	サービス向上委員会	接遇	偶数月 第2木	
		利用者サービス		
		職員サービス		
	感染対策委員会	感染対策	奇数月 第2木 (+随時)	
	レク・ボランティア委員会	レク・クラブ	偶数月 第4木	
ボランティア・実習				
広報委員会	広報誌 ホームページ	5・7・9・11・ 2月 第4 木曜日		
栄養委員会	栄養	偶数月 第2木		
夕礼	第2木曜日	出勤している全職員		
褥瘡対策チーム	第2水曜日	師長・看護職員・機能訓練主任・介護支援専門員・管理栄養士・介護職員		
認知症ケアチーム	偶数月 第4木曜日	施設長・次長・認知症介護指導者・認知症介護リーダー研修修了者・認知症介護実践者研修修了者・ 各職種		
特養	特養運営会議	第4水曜日	施設長、師長、介護士長、介護主任、機能訓練主任、介護副主任、介護支援専門員(入所・ショート)、生活相談員	
	入所選考委員会	第4月曜日	施設長、医師、師長、介護士長、生活相談員、介護主任、機能訓練指導員、介護支援専門員	
	特養実務者会議	第1水曜日	介護士長、介護主任、機能訓練主任、介護副主任、介護支援専門員、看護リーダー、介護リーダー、管理栄養士、生活相談員	

	特養フロア カンファレンス	第2木曜日(特養3階) 当月の前半(特養2階)	介護士長、介護主任・介護副主任・介護職員
	特養ケアカンファレンス	第1・3火(2F) 第2・4火(3F)	介護支援専門員、介護士長、介護主任、機能 訓練主任、生活相談員、管理栄養士、看護職 員、介護職員
	喀痰吸引等実施の為の 安全対策委員会	第2金曜日	施設長、医師、課長、師長、介護士長、介護 主任、看護職員
D S	デイサービス運営会議	第4木曜日	管理者、機能訓練主任、 生活相談員、介護主任、介護副主任
	デイサービス実務者会議	第1金曜日	管理者、生活相談員 介護主任、介護副主任、介護職員
	デイサービス フロアカンファレンス	第2木曜日	管理者、生活相談員、看護職員、介護主任、 介護副主任、介護職員
G H	グループホーム カンファレンス	不定期月一回	管理者、計画作成者、介護副主任、介護職員
	グループホーム ケアカンファレンス	第3or第4水曜日	管理者、師長、計画作成者、介護副主任、 介護職員
H S	ヘルパーステーション 運営会議	第4金曜日	管理者、師長、提供責任者
	ヘルパーステーション カンファレンス	第2火曜日 第3火曜日	管理者、師長、提供責任者、介護職員、 登録ヘルパー
C H	ケアハウス カンファレンス	第2金曜日	管理者、師長、生活相談員、介護職員、
C P C	ケアプランセンター カンファレンス	第3金曜日	所長、介護支援専門員、施設長
	利用者に関する情報又は サービス提供にあたって の留意事項に係る伝達項 目を目的とした会議	毎週月曜日	所長、介護支援専門員
	生活相談員会議	第3金曜日	施設長、生活相談員、ホーム長、センター長
	看護カンファレンス	随時	師長、看護職員
	機能訓練カンファレンス	適宜	機能訓練主任 機能訓練
	言語療法会議	第3木曜日	医師、歯科医師、歯科衛生士、機能訓練主任、 管理栄養士、看護職員、介護職員、介護支援 専門員
	音楽療法会議	適宜	医師、師長、機能訓練主任、デイ相談員、ホ ーム長、介護士長、介護主任、音楽療法士、 介護支援専門員

#### IV 委員会報告

##### 1. 衛生委員会

職員の健康保持増進に関する重要事項について年間計画を立て、毎月の委員会で審議し課題に対する取り組みを実施することで、労働衛生の向上を図ってきました。

具体的には、定期的な職場巡視と過重労働の予防、メンタルヘルスの推進（ストレスチェックの実施、教育研修、常設相談室の開設、等）、健康診断結果等について審議し、研修や各職員への対応を実施しました。

##### 2. 教育委員会

新型コロナウイルス感染症対策として、内部研修を資料回覧とウェビナー（動画視聴）で実施しました。集合研修に比べて、当日出勤者以外も研修に参加できる為、参加人数は字羽化しています。外部研修はオンラインで参加できる研修が増えて、前年度に比べて参加人数は増加しています。新人教育制度では、プリセプター制度を実践して、働きやすい環境を作り指導を行いました。

###### 【内部研修】

開催月	研修内容	講師	参加者の職種	開催方法	参加人数
4月	高齢者虐待	リスクマネジメント委員	管理者 看護職員 介護職員 事務職員 管理栄養士 機能訓練指導員 介護支援専門員 生活相談員	資料回覧	全部署
5月	水害訓練	リスクマネジメント委員		ウェビナー	全部署
6月	倫理・法令遵守	教育委員		ウェビナー	全部署
	腰痛体操	機能訓練士		各部署	全部署
7月	ガウンテクニック	看護師長		ウェビナー	全部署
8月	介護事故	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
	看取り	看護師		ウェビナー	全部署
9月	褥瘡	褥瘡チーム		資料回覧	全部署
	感染経路	第一東和会病院病院 感染対策室 吉野師長		ウェビナー	全部署
10月	手指衛生	第一東和会病院病院 感染対策室 吉野師長		ウェビナー	全部署



10月	車両事故	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
11月	人権	教育委員会		ウェビナー	全部署
	ノロウイルス インフルエンザ	感染対策委員会		資料回覧	全部署
12月	食中毒	感染対策委員会 管理栄養士		ウェビナー	全部署
	新型コロナウイルス感 染症とインフルエンザ の同時流行に備えて	第一東和会病院病院 感染対策室 吉野師長		ウェビナー	全部署
	身体拘束 高齢者虐待	リスクマネジメント委員		ウェビナー	全部署
1月	接遇	サービス向上委員会		ウェビナー	全部署
	介護事故について	リスクマネジメント委員		資料回覧	全部署
	フィリス	言語聴覚士		資料回覧	全部署
2月	メンタルヘルス (4等級以上)	衛生管理者		資料回覧	全部署
3月	メンタルヘルス (全職員)	衛生管理者		資料回覧	全部署
	認知症ケア I	実践者研修修了者		資料回覧	全部署
	防災	防災責任者		資料回覧	全部署

【外部研修】

月日	研修名	主催	参加者
4/4～	介護支援専門員更新研修専門研修 過程Ⅱ	大阪府介護支援専門員協会	税所 恵
4/4～	介護支援専門員更新研修専門研修 過程Ⅱ	大阪府介護支援専門員協会	品川 千秋
4/4～	介護支援専門員更新研修専門研修 過程Ⅱ	大阪府介護支援専門員協会	藤井 篤子
4/4～	介護支援専門員更新研修専門研修 過程Ⅰ	大阪府介護支援専門員協会	藤井 篤子

5/24～ 8/1	認知症介護実践者研修	大阪老人保健施設協会	足立 茉奈美
6/4	点メモを活用して頭の整理をしてみよう	高槻ケアネット	中村 久義
6/4	点メモを活用して頭の整理をしてみよう	高槻ケアネット	橋本 禄子
6/15～ 8/25	認知症介護実践リーダー研修	社会福祉法人聖徳会	住吉 めぐみ
6/15～ 7/27	社会福祉法人会計の簿記入門	大阪府社会福祉協議会	井谷 尚利
6/10. 17. 24	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 中堅職員	大阪府社会福祉協議会	田中 勇気
7/3～ 8/12	認知症介護実践者研修	大阪介護福祉士会	高橋 浩子
7/20	介護福祉士実習指導者講習会	学校法人 田島学園近畿社会福祉専門学校	花木 文恵
7/26	変化適応力 ノンバーバルコミュニケーションの重要性	大阪府社会福祉協議会	宮原 武
8/10 9/10	感染症予防を实践・推進できるリンクナース育成研修	大阪府看護協会	田代 マツコ
8/16～ 3/13	介護支援専門員研修専門課程 I	大阪府介護支援専門員協会	吉岡 富美代
9/17～ 3/6	介護支援専門員研修専門課程 I	大阪府介護支援専門員協会	天正 薫
9/20	心をつなぐコミュニケーション	大阪市社会福祉協議会	田中 勇気
10/7～ 12/16	認知症介護実践者研修	東北福祉カレッジ	久保 智也
10/26～ 11/1	認知症対応型サービス事業管理者研修	大阪府社会福祉協議会	中谷 翔太
10/17	リスクマネジメントに関する研修会	福祉と人権の研修ネットワークおおさか	馬野 翼
10/25	広報誌の作り方講座	大阪府社会福祉協議会	足立 貴志
10/27	日本医療福祉設備学会	日本医療福祉設備協会	上田 拓
10/31	地域包括支援センター職員課題別	長寿社会開発センター	橋本 禄子
11/20	目からうるこの介護技術講習会	高槻市理学療法士会事務局	前田 伊織
11/20	目からうるこの介護技術講習会	高槻市理学療法士会事務局	中西 誠治
12/16～ 3/15	認知症介護実践リーダー研修	社会福祉法人聖徳会	足立 このみ
12/18	喀痰吸引研修のための医療的ケア	社会福祉法人キリスト教ミー	谷山 一美

	教員講習会	ド社会館	
12/23	処遇改善支援補助金実績報告書の作成方法&3種の処遇改善加算解説セミナー	ゆびすい	堀本 美穂
12/23	居住支援セミナー	社会福祉法人桃林会・岸和田市 社会福祉協議会	中谷 翔太
2/7	社会福祉法人の決算実務研修会	大阪府社会福祉協議会	中野 一樹
2/7	社会福祉法人の決算実務研修会	大阪府社会福祉協議会	井谷 尚利
2/13	認知症介護基礎研修	認知症介護研究研修仙台センター	松田 真紀子

### 3. リスクマネジメント委員会

#### 【事故防止】

2022年度の1号事故報告件数は、以下の通りです。事故発生を防止するために、原因を究明し対策を実施しています。また、全職員に対して対策について周知徹底をすると共に勉強会等も開催しています。

	1号事故発生数					
	重大事故発生数					
	2022年度	2021年度	差異	2022年度	2021年度	差異
特別養護老人ホーム	45	37	8	16	3	13
ショートステイ	6	6	0	1	1	0
デイサービス	3	4	-1	0	0	0
グループホーム	4	17	-13	2	6	-4
合計	58	64	-6	19	10	9

#### 【身体拘束廃止】

緊急でやむを得ない場合は、各部署及び委員会で検討していますが、やむを得ず拘束を行う場合については、ご利用者の身体に負担の少ない方法・時間帯で実施するように努力しています。また、拘束廃止に向けての検討を繰り返し行い、ご利用者の精神的苦痛を軽減するよう対策を検討しています。

### 4. 行事委員会

月日	行事名	内容

4月上旬	観桜会	近隣に出向き桜を楽しみました。
7/1～7/8	七夕	短冊に願いを込めて笹に飾り付けました。
7月中旬～8月	納涼祭	各部署で実施しました。
	流しそうめん	中止しました。
9月中旬	敬老会	各部署で実施しました。
	かるた大会	中止しました。
11月3日	和太鼓演奏会	当園、中庭で演奏を各部署より観覧しました。
12月中旬	ゆず湯	ゆず湯を堪能しました。
	餅つき会	中止しました。
12月下旬	門松作成	門松を作製し、飾りました。
2月上旬	節分	各部署で実施しました。

今年度も新型コロナウイルス感染症対策として、全事業所において人が集まり実施する行事に関しましては、リスクを検討の上、中止致しました。季節を味わう装飾などのイベントについては感染対策の上、実施致しました。

## 5. サービス向上委員会

### 【接遇係】

表面上のマナーのみでなく、ご利用者・ご家族が「心あたたまる」接遇がおこなえるよう介護職員向け、事務職員向け等の研修を今年度も書面やオンライン対応でおこないました。

また、身だしなみについては、家庭的な暮らしの場としての雰囲気づくりに努めました。

### 【利用者サービス係】

#### <家族会>

特養が主催する家族会のサポート役として、参加予定でした。しかし、コロナ渦で今年度も見送りとなりました。

開催予定日		予定内容	家族参加数
5/未定	特養家族会	未開催	中止
11/未定	特養家族会	未開催	中止

#### <苦情処理>

ご利用者・ご家族等からの苦情申し出の方法として、各フロアに「意見箱」を設置しております。意見箱の意見は、各事業担当者より回答を得て、それらの意見をサービス向上委員会で集約しております。

なお、利用者等からの意見の回答に関しては掲示板に掲示しております。

苦情に関しては、苦情受付窓口担当者が苦情の詳細について本人等から聞き取りをおこない、改善・解決に向けて取り組んでおります。苦情内容に関しては、苦情解決責任者、サービス向上委員会に報告し改善・解決策の妥当性について検討しております。

サービス向上委員会での苦情の改善・解決に関する審議の結果、必要時には所属長会議に報告し施設全体的に検討しています。

これら内部窓口の他にも、第三者委員、公的機関窓口の説明もしております。

対応した苦情内容は下記、第三者委員にも報告しています。

< 2021年度苦情件数 >

1. 特別養護老人ホーム 1件
  2. ショートステイ 0件
  3. デイサービスセンター 1件
  4. ヘルパーステーション 0件
  5. グループホーム 0件
  6. ケアハウス 0件
  7. ケアプランセンター 0件
  8. 地域包括支援センター
- 合計 2件

苦情受付窓口担当者

事業所	窓口担当者	責任者
特別養護老人ホーム和朗園	杉山 耕平	井谷 尚利
ショートステイ和朗園	塚本 康二	井谷 尚利
デイサービスセンター和朗園	山田 晃平	中野 一樹
グループホーム和朗園	足立 このみ	中谷 翔太
ヘルパーステーション和朗園	山田 志津子	井谷 尚利
ケアプランセンター和朗園	介護支援専門員	古川 幸代
ケアハウス佑和	山岡 裕	中野 一樹
地域包括支援センター	津崎 いずみ	椿 和美

外部第三者委員として、次のように定めています。

第三者委員
・ 住民代表 佐々木 進次郎
・ 第二東和会病院 名誉院長 榊原 茂樹 ( Tel 072-674-1008 )
・ 住民代表 佐々木 映 吾

【職員サービス係】

今年度は「職員満足度調査」の実施なし。

## 6. 感染対策委員会

2022年12月当施設における3回目のクラスターがデイサービスで発生し、6日間デイを休止いたしました。利用者様には、大変ご迷惑をおかけしたと思います。

2023年2月インフルエンザウイルス感染者が、職員2名、利用者9名発生しました。同時に胃腸炎症状を呈した利用者も延18人発生しましたが、大事に至らず回復されました。様々な感染が続く中、6月より第一東和会病院感染認定看護師より指導を受けて感染（環境中心）ラウンドを1/W開始し、リンクスタッフを中心に活動を行っています。特養から開始し、現在ではグループホーム・デイサービス・ケアハウスにも波及させています。今後も一層気を引き締め感染対策に取り組みたいと考えます。そして利用者・家族に安心できる生活環境を提供していきます。

	活動	備考
4月	施設内ラウンド	管理日誌変更
5月	出勤時の手洗いチェック・呼びかけ 定例会議 寝具交換・衣替え 体調チェック	
6月	水質検査 勉強会 施設内ラウンド 体調チェック	食中毒予防 配管洗浄（デイ）
7月	定例会議 体調チェック	冷房使用中の衣類調節 空調や換気の発信
8月	施設内ラウンド 体調チェック	熱中症・脱水症予防
9月	定例会議 水質検査 体調チェック	Vセット備品点検と補充 配管洗浄（CH）
10月	出勤時の手洗いチェック・呼びかけ 勉強会 感染マニュアル確認・改訂 体調チェック	感染症発生情報・関連ポスター掲示 インフルエンザ・ノロウイルスの予防対策 各部署へ感染予防の徹底を指示する Vセットトレーニング
11月	定例会議 感染症対策・体調チェック 寝具交換	温度・湿度（霧吹き）管理を各部署へ発信 暖房中の衣類管理 Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 管理日誌変更
12月	水質検査 感染症対策・体調チェック 施設内ラウンド	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 配管洗浄（デイ）

1月	定例会議 感染症対策・体調チェック	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 手指消毒アルコール個人携帯開始
2月	感染症対策・体調チェック 施設内ラウンド	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示
3月	定例会議 感染症対策・体調チェック 水質検査	Vセットトレーニング・感染症発生情報掲示 配管洗浄（CH）

## 7. レク・ボランティア委員会

### 【レクリエーション】

新型コロナウイルスの影響もあり、できるだけ密にならないように取り組みました。大きなイベントもなかったもので、少しでも季節感を感じられるように小規模で実施できるように努めました。

3/3	雛祭り	各部署お内裏様お雛様を飾り雰囲気づくり行いました。（甘酒提供）
5/3～5	菖蒲湯	湯船に菖蒲浮かべに楽しみました。
5/2	新茶の会	新茶を提供し、季節感を味わいました。
5/8	母の日	カーネーションを飾り写真撮影行いました。
6/19	父の日	各部署に思考を凝らしてイベント実施しました。（プレゼント・晩酌会・お花等）

### 【ボランティア】

今年度はボランティアの受け入れはあまりできませんでしたが、感染状況を見極め、段階を踏まえながら今後の対策を検討していきます。

## 8. 広報委員会

### 【広報誌】

各部署（特養・DS・GH・CH）および施設全体（つばめだより）広報誌を発行いたしました。

特養：4・8・10・1月

DS：4・8・10・1月

GH：5・8・10・1月

CH：4・8・10・1月

つばめだより：4・8・10・1月

各部署の対象となる読者に向け内容を検討し作成しました。

## 9. 栄養委員会

### 【給食】

ご利用者一人一人の食事から、食レクの企画まで「食の楽しみ」を演出する為、日々検討・改善を重ねています。

感染予防の観点から例年通りの食レクの実施は行わず、相談して可能な範囲での食レク提供としています。

#### 【栄養】

食器の購入、メニューや食材の評価、アンケート結果の検討など、運営に関する課題について委託業者を交えて意見交換し、ご利用者のニーズにいち早く応えられるような柔軟な体制作りを行いました。

### 10. 褥瘡対策チーム

新入所のご利用者を中心に、ブレデン評価・チーム全員でフロアラウンドを行い、ポジショニング等の評価を行ない褥瘡予防に取り組みました。発生人数は16名(前年比=8名)でした。コロナによる感染対策で居室対応が増えた月には上昇傾向に転じる等、離床の大切さを再認識いたしました。

今後も褥瘡予防に努めると共に、褥瘡発生時はマットレス・クッション・体交枕等の再評価を行ない、毎日の洗浄や薬剤塗布、週一回ラウンドを行い医師による評価・治療等早期治癒に努めて行きます。

今後もスタッフの褥瘡へのリスク感性の継続や報連相がタイムリーに行える環境の維持に努めて行きたいと考えております。

### 11. 認知症ケアチーム

認知症介護実践者研修で学んだことを活かし、各部署で起こっている認知症ケア実践に関する事例検討を、個別及び小規模カンファレンスを行いました。コロナ禍の影響で開催できていなかった認知症カフェについても、地域の協力を得て場所を借り、再開することができました。今後も認知症ケアの専門性の向上を図るとともに、地域に住む認知症高齢者の日常生活・家族支援を強化に努めます。

## V 防災訓練

2022年度も新型コロナウイルスの影響で全体での訓練は中止しており、各部署での消火設備の説明や避難方法などを新入職員中心に実施しました。3月実施予定の訓練も動画研修となっております。

大規模災害対策として、2月22日に水害避難訓練を行い、防災への取り組みの意識向上に取り組むことができました。

#### 防災避難訓練

日時	内容	参加人数
8/18	指揮訓練、消火訓練、安全防護訓練、屋外消火栓操法、通報連絡訓練、避難誘導訓練、応急救護訓練	19名
2/22	水害避難訓練	全職員
3/30	防災訓練 動画研修	全職員



## 防災管理委員会構成

(なお、防災管理委員会は、消防計画上の防火対策委員会を兼ねるものとする)

役名	補職名	氏名	担当業務
委員長	統括施設長	井谷尚利	全般指揮(自衛消防隊長兼務)
副委員長	次長	中野一樹	委員長の補佐(自衛消防副隊長兼務)
委員	地域包括支援センター長	椿和美	地域連携連絡・避難者受入調整
委員	看護師長	東口すみ江	救護担当
委員	生活相談員	塚本康二	避難誘導対策担当
委員	認知症対応型共同生活介護ホーム長	中谷翔太	夜間対策担当
委員	介護老人福祉施設主任	井上博幸	災害リスク担当
委員	介護老人福祉施設士任	伊佐泰典	職員教育担当
委員	機能訓練主任	榎辺夕子	消防設備・建築設備の点検担当
委員	地域包括支援センター主任	津崎いずみ	地域連携連絡・避難者受入調整
委員	居宅介護支援事業所所長	古川幸代	地域連携担当
委員	管理栄養士	片岡愛	備蓄担当

( ) 内消防計画上の防火対策委員会での兼務事項

## 火元責任者一覧

	担当エリア	補職名	氏名
防火管理者	施設全体管理	次長	中野一樹
火元責任者	事務所	相談員	塚本康二
火元責任者	包括支援センター	包括センター長	椿和美
火元責任者	クリニック	看護師長	東口すみ江
火元責任者	デイサービス	センター長	中野一樹
火元責任者	特別養護老人ホーム2階	主任	井上博幸
火元責任者	特別養護老人ホーム3階	士長	伊佐泰典
火元責任者	グループホーム	ホーム長	中谷翔太
火元責任者	ケアハウス	生活相談員	山岡裕
火元責任者	5階会議室	生活相談員	山岡裕
火元責任者	厨房	(株)塩梅なにわ	片岡愛

## 自衛消防組織編成表(地震防災応急組織)

	担当	内容
自衛消防隊隊長	井谷尚利	全般指揮
自営消防隊副隊長	中野一樹	隊長の補佐
防災センター通報班	椿和美	通報・地域連携連絡
安全確保班	事務職員	避難路の確保
救護班	看護職員	負傷者の応急手当等
設備班	機能訓練指導員	必要物品の用意・管理
通報班	介護職員・看護職員・サービス担当責任者	施設利用者等への通報
消火班	介護職員・サービス担当責任者	初期消火

避難誘導班	介護職員・看護職員・サービス担当責任者	避難誘導、救護
安全班	機能訓練指導員	防火戸の閉鎖等

## VI 地域との交流

長引く新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年と同様に頻度は減少したままでした。

10月後半には、イオン高槻店からの依頼で「みんなの介護教室」と題し、住民向けの常設相談と介護技術指導、体操などの機会を提供しました。また、11月には地域包括支援センター主催の、徘徊高齢者予防のための「あんしん声がけ運動（北大冠地区）」へ参加し、5月と令和6年2月に地域高齢者の実状とその支援対応を共有するための上牧地区セーフティネット会議へ参加しました。

## VII 喀痰吸引研修事業

介護職員による医療連携の一環として、介護職員が利用者に対して行う喀痰吸引や経管栄養の手順を研修する事業を行っています。今年度は9名の受講者がありオンライン研修を行いました。筆記試験は10名実施し、9名合格。年度内に実地研修も終了し認定資格を得ることが出来ました。

## VIII 初任者研修事業

幅広く介護人材の裾野を広げ、多くの人材を育てていくことを目的に、職員初任者研修事業を今年度1回も開講しました。現在無資格で介護職員として働いている職員のキャリアアップやご自身の親への介護の為と受講理由は様々ですが、今年度も優秀な人材を送り出しました。

開講日 2022年10月17日～ 2022年12月16日

定員 8名

修了者 8名

## IX 放課後ひろば和っはっは

普段元気に学校から帰ってくる姿や、中庭で元気よく遊ぶ姿に、利用者は元気をもらっているようです。

感染対策にも十分気をつけながら、子ども達へ感染についての意識の向上に努めました。

また、近年顕在化してきている児童の相対的貧困支援として、食事支援・経済的支援が必要な児童及びその家族等には、食事支援・経済的支援につなげ、児童の健やかな育成につなげることを目的とし、取り組んでまいりました。

- ・年間利用延べ人数 4043人
- ・開所日数 275日
- ・平均人数 14.7人/日

## X 生計困難者に対する相談支援事業

今年度 4 件の経済的支援をおこないました。1 件目は祖母の遺産で生活していたが、金銭管理ができず所持金が無くなる。生活保護と成年後見人の支援を開始するが、それまでの経済支援が必要。2 件目は親からの虐待で高槻市へ転居される。生活保護の申請をするがそれまでの生活費が必要になり支援。3 件目はミャンマー人の方でビザの再取得が必要となり、再就職も希望されるが、転居に伴うビレッジハウスの違約金、引っ越し費用が無く生活費にも支援が必要。4 件目は実兄と生活していたが、実兄に収入が無く、家賃滞納で退去しなければいけないため、シェアハウスに引っ越しされるも携帯代や家賃滞納分の支払いが必要となり支援。

## XI 和く和くジム

自立された方の IADL 維持目的で、送迎無しのジム、指導者有り 1 時間程度の形でリハビリ事業として開催しておりますが、今年度はコロナ渦で見合わせております。

曜日	月～土	9:00～11:30	13:00～17:00
Aコース	週1回(月5回まで)	1500円	
Bコース	週2回(月10回まで)	3000円	
Cコース	週4回(月20回まで)	5000円	

	延べ人数		
	2021年度	2020年度	差異
4月	0	0	0
5月	0	0	0
6月	0	0	0
7月	0	0	0
8月	0	0	0
9月	0	0	0
10月	0	0	0
11月	0	0	0
12月	0	0	0
1月	0	0	0
2月	0	0	0
3月	0	0	0
合計	0	0	0

## XII 音楽療法

新規事業を安定させデイサービスとグループホームとケアハウスに向けた

「ミュージックセラピー」で個別対応を1週間に1日から2日に回数を増加し取り組み、また地域向け「ほん和かミュージックルーム」も月2回から4回に回数を増加し認知症予防・健康維持及び生きがい創りの場を提供しますが、今年度はコロナ渦で見合わせております。

ほん和かミュージックルーム（利用者数：各10名 / 金曜日に2回開催）  
再開未定

ミュージックセラピー（利用者数：個別 20分月金曜日開催）  
グループホームのみオンラインや個別で開催

	2022年度			
	ほん和かミュージックルーム	デイミュージックセラピー	G・Hミュージックセラピー	特養ミュージックセラピー
4月	0	0	12	0
5月	0	0	15	0
6月	0	0	16	0
7月	0	0	10	0
8月	0	0	16	0
9月	0	0	20	0
10月	0	0	13	0
11月	0	0	16	0
12月	0	0	16	0
1月	0	0	16	0
2月	0	0	15	0
3月	0	0	20	0
合計	0	0	185	0
前年度合計	0	0	36	0
差異	0	0	149	0

2022 年度

事業報告書

社会福祉法人 恭生会

## 在宅複合型老人介護施設 天兆園

### 【在宅複合型老人介護施設 天兆園の部】

#### 令和4年度総括

令和4年度は、感染対策を行いながらの活動を行うことが出来ました。数年ぶりに大規模行事や、屋外への活動も行いました。又、適切な新型コロナウイルス感染対策を行いながら、専門職員の地域会議への参加や関係職種を集めての施設での会議も行いました。

しかし、8月にはショートステイで新型コロナウイルスのクラスターが発生し、一時全員退所を行うまでに至りました。復旧までの流れはスムーズに行えましたが、発生時の対応や、主要職員が感染して離脱した際の指揮命令系の脆弱さが浮き彫りにもなりした。この事から事業継続計画(BCP)を策定する事で、事象が発生してから収束するまでの、スムーズな対応を行う必要があると感じました。

#### I 目標

##### 1. 感染症や災害への対応力を強化します。

感染症対策の強化、業務継続に向けた取り組みの強化、災害への地域と連携した対応の強化に努めます。

⇒令和4年度は8月にショートステイで新型コロナウイルスの複数発生が見られ、一時的に入所者全員の退所を実施しました。その際、ショートステイに関しては、営業を止める形になりましたが、その他の部署は通常通りサービスを止めることなく提供することが出来ました。地域と連携した動きに関しては、災害訓練も行いましたが、新型コロナウイルス流行もあり、共同では行う事は出来ませんでした。

##### 2. 地域包括ケアシステムの推進を行います。

認知症への対応力向上、看取りへの対応の充実、相談機能の強化を行いながら様々な課題  
⇒新型コロナウイルスの5類移行もある事から、年度末より認知症カフェ再開に関しての取り組みを実施しており、令和5年度に再開予定です。地域の方の意見を聞き、認知症に関する取り組みとして、進めていきたいと考えています。イベントに関しても数年前と同じとはいきませんが、大規模行事を行う事が出来ました。

看取りに関しても研修を行うことで、理解を深めております。

##### 3. 介護人材の確保、ICTの導入を行います。

職員研修体制の強化に努め、サービスの質向上を図りつつ安心して働くことができる環境の整備に努めます。また、ICTの導入を推進し、業務の効率化・負担の軽減に努めます。

⇒研修体制に関しては、紙面回覧の形が多く、外部への研修も事務系以外での参加はほとんど出来ていません。令和5年度には認知症介護リーダー研修の参加も申し込みを行っており、介護職員の外部研修を充実して参ります。

#### II 利用者状況

## 1、介護度別状況

### ショートステイ (延べ人数)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	2022年度合計	2021年度合計	差異
4月	0	0	84	209	161	162	140	756	765	-9
5月	0	0	110	166	182	175	138	771	729	42
6月	0	0	107	172	188	186	107	760	672	88
7月	3	3	104	186	182	164	149	791	780	11
8月	4	0	96	103	110	108	75	496	774	-278
9月	0	0	71	163	204	179	151	768	758	10
10月	0	10	82	184	201	189	155	821	771	50
11月	0	2	95	158	202	181	145	783	795	-12
12月	3	7	75	202	191	184	112	771	838	-67
1月	0	6	90	170	201	156	93	716	765	-49
2月	0	8	75	200	183	156	98	720	692	28
3月	0	13	107	229	157	150	109	765	825	-60
合計	10	49	1214	2142	2162	1990	1472	9039	9119	-80

平均介護度 3.1

昨年対比 99.1%

### デイサービス (延べ人数)

	要支援1 (事業対象者)	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	2022年度合計	2021年度合計	差異
4月	33	71	334	236	201	157	151	1183	1257	-74
5月	30	66	337	244	209	150	135	1171	1199	-28
6月	35	63	353	238	186	153	139	1167	1214	-47
7月	40	62	329	249	201	159	166	1206	1253	-47
8月	52	64	334	269	220	186	165	1288	1248	40
9月	56	59	352	247	199	193	176	1282	1236	46
10月	53	58	351	309	210	184	148	1313	1219	94
11月	67	56	372	298	199	170	118	1276	1262	14
12月	49	62	392	277	209	162	106	1257	1248	9

1月	39	47	336	248	182	134	81	1067	953	114
2月	52	54	332	258	179	130	102	1107	941	166
3月	65	60	372	335	215	148	122	1317	1122	195
合計	565	722	4194	3208	2410	1926	1609	14634	14152	482

平均介護度 2.4

昨年対比 103.4%

ケアプランセンター (延べ人数)

	事業 対象 者	要支 援1	要支 援2	要介 護1	要介 護2	要介 護3	要介 護4	要介 護5	2022年 度合計	2021年 度合計	差異
4月	1	9	9	56	33	20	13	5	146	139	7
5月	1	8	9	53	34	18	12	6	141	135	6
6月	1	9	9	57	31	19	10	7	143	139	4
7月	1	10	10	56	34	18	9	8	146	141	5
8月	1	12	10	57	34	18	9	8	149	132	17
9月	1	11	11	54	34	18	10	9	148	141	7
10月	1	12	13	54	40	16	9	7	152	140	12
11月	1	12	12	53	45	16	9	6	154	149	5
12月	1	12	11	55	45	18	8	4	154	142	12
1月	1	14	11	56	42	18	8	3	153	137	16
2月	1	14	11	51	42	18	7	4	148	138	10
3月	1	14	11	49	47	17	5	4	148	140	8
合計	12	137	127	651	461	214	109	71	1782	1673	109

昨年対比 107%

ヘルパーステーション (延べ人数)

	派遣回数	
	2022年度	2021年度
4月	462	713
5月	478	693
6月	487	652
7月	492	536



8月	508	485
9月	477	491
10月	466	481
11月	464	463
12月	457	427
1月	385	415
2月	396	377
3月	447	454
合計	5519	6187

昨年対比 89.2% (2022年度 自費サービス除く)

## 2. 機能訓練状況 (延べ人数)

### 短期入所生活介護

	2022年度			
	個別訓練	集団訓練	機能訓練加算	個別機能訓練加算
4月	72	319	753	72
5月	74	310	778	74
6月	81	295	763	81
7月	80	273	787	80
8月	21	62	489	21
9月	92	271	738	92
10月	95	266	851	95
11月	101	229	784	101
12月	90	236	764	90
1月	70	197	695	70
2月	94	270	699	94
3月	115	229	807	115
合計	985	2957	8908	985
前年度	530	4290	9166	530
昨年対比	185.8%	68.9%	97.1%	185.8%

### 通所生活介護

	2022年度
--	--------

	個別訓練	小集団訓練	個別機能訓練加算 Iイ	個別機能訓練加算 Iロ	運動機能向上加算	生活機能連携向上加算
4月	680	399	33	937	19	123
5月	619	422	34	987	20	127
6月	618	424	1	982	18	124
7月	709	360	1	1004	20	129
8月	642	479	130	947	21	141
9月	699	445	36	1030	23	137
10月	706	321	80	962	21	146
11月	678	450	6	1084	23	156
12月	683	441	155	924	23	156
1月	642	315	1	916	21	144
2月	587	396	155	769	21	142
3月	704	476	175	953	23	143
合計	7967	4928	807	11495	253	1668
前年度	6737	6486	603	12100	146	1545
昨年対比	118.2%	75.9%	133.8%	95.0%	173.2%	107.9%

個別機能訓練加算 I、II、及び集団訓練は 2021 年度介護保険の改正で機能訓練加算 I イ・I ロ及び小集団訓練に変更

### III 地域との交流

日時	行事	内容
R4. 4～R5. 3	山手台福祉委員会	福祉委員による地域福祉活動等の会議（1回/月）
R4. 4～R5. 3	石河地区福祉委員会	福祉委員による地域福祉活動等の会議（1回/月）
R4. 4～R5. 3	清溪地区福祉委員会	福祉委員による地域福祉活動等の会議（1回/月）
R4. 4～R5. 3	アルプラザ相談会	商業施設での福祉相談会（1回/偶数月）
R4. 4～R5. 3	カフェサロン(西河原)	ローレル集会所、サニーハウス集会所、西太田自治会館にて、喫茶サロン 新型コロナウイルスの対応により開催なし
R4. 4～R5. 3	ティーサロン(東太田)	高齢者対象のサロン（7回/年）
R4. 4～R5. 3	こだま会(西太田)	高齢者対象のサロン、健康講座等（7回/年）

R4. 4～R5. 3	サニーサロン(東太田)	高齢者対象の食事を伴うサロン (1回/月)新型コロナウイルスの対応により開催なし
R4. 4～R5. 3	やまびこの会(東太田)	高齢者対象のサロン、歌体操等 (1回/年)
R4. 4～R5. 3	山手台街デイ (山手台)	ななつ星(山手台) (1回/月)
R4. 4～R5. 3	山手台コミセン茶屋	高齢者対象のサロン (1回/月) 新型コロナウイルスの対応により開催なし
R4. 4～R5. 3	いきいきサロン(安威)	高齢者対象のサロン、脳トレ等 (1回/月)
R4. 4～R5. 3	S N会議(山手台)	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討 (4回/年)
R4. 4～R5. 3	S N会議(清溪)	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討 (1回/月)
R4. 4～R5. 3	S N会議(忍頂寺)	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討 (1回/月)
R4. 4～R5. 3	S N会議(北中)	要援護者及び中学校区課題検討 (3回/年)
R4. 4～R5. 3	S N会議(福井)	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討、研修 (5回/年)
R4. 4～R5. 3	S N会議(安威)	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討 (奇数月)
R4. 4～R5. 3	S N会議(西河原)	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討、研修 (偶数月)
R4. 4～R5. 3	S N会議(太田)	地域連携会議、要援護者及び地域課題検討、研修 (4回/年)
R4. 4～R5. 3	S N会議(北陵中)	要援護者及び中学校区課題検討 (3回/年)
R4. 4～R5. 3	S N会議(太田中)	要援護者及び中学校区課題検討 (3回/年)
R4. 4～R5. 3	福井サロン	高齢者対象のサロン (1回/月) 新型コロナウイルスの対応により開催なし
R4. 4～R5. 3	安威団地連絡会	地域連絡会議 事例検討等 (1回/3ヶ月)
R4. 4～R5. 3	上野町・耳原連絡会	地域連絡会議 事例検討等 (1回/3ヶ月)

		ヶ月)
R4. 4～R5. 3	S N会議(耳原)	地域連連携会議 (1回/3ヶ月) 新型コロナウイルスの対応により開催なし
R4. 4～R5. 3	グループホーム運営推進会議	ふれあいぽっぽ運営推進会議 (1回/2ヶ月)
R4. 4～R5. 3	グループホーム運営推進会議	コティ東彩都(奇数月) 新型コロナウイルスの対応により開催なし
R4. 4～R5. 3	地域密着型通所介護運営推進会議	いっぷく、デイサービスみのはら(2回/年) 新型コロナウイルスの対応により書面開催
R4. 4～R5. 3	地域密着型通所介護運営推進会議	コティ東彩都、双子屋(2回/年) 新型コロナウイルスの対応により開催なし
R4. 4～R5. 3	地域密着型特別養護老人ホーム運営推進会議	ほくしん苑運営推進会議(1回/2ヶ月)
R4. 4～R5. 3	小規模多機能型支援事業運営推進会議	ほほえみの郷車作(偶数月)
R4. 4～R5. 3	運営協議会	茨木市地域包括支援センター運営協議会(4回/年)
R4. 4～R5. 3	いきいき交流広場	ふじだな、朝日丘交流亭、見山、銭原(不定期)
8月、2月	老人クラブ(長寿会)	健康相談と講話、脳トレなど(年2回)
R4. 4～R5. 3	老人クラブ(車作)	健康体操・講話(1回/月)
5月、11月	耳原地区福祉委員会	グランドゴルフにて熱中症予防講話、相談
10/27～28	藍野短期大学 実習生受入	藍野短期大学(保健師)の実習受入
6/1～6/3 6/29～7/1 7/6～7/8	大手前大学 実習生受け入れ	大手前大学(看護師)の実習受入
8月	夏祭り	太田小・山手台・安威・清溪・忍頂寺地区新型コロナウイルスの対応により開催なし
10月	敬老会	耳原地区は開催。(啓発と健康相談) 安威・福井・清溪・忍頂寺・山手台地区は新型コロナウイルスの対応により開催なし

7月1 11月17.30	ノルディックウォーク	活動の機会、体力づくり
9月	健康フェスタ	認知症に関する相談を受ける。新型コロナウイルスの対応により開催なし。
R4.4～R5.3	地域ケア会議	清溪・忍頂寺・山手台と天兆園の各包括で開催（全6回）
R4.4～R5.3	子育てサロン（西河原）	西河原コミセン、いぶきの丘学園にて子育てサロンを実施（2回/年）新型コロナウイルスの対応により開催なし
R4.4～R5.3	子育てサロン（安威）	安威公民館にて子育てサロンを実施（2回/年）新型コロナウイルスの対応により開催なし
R4.4～R5.3	子育てサロン（太田）	藍野大学に協力いただきオンライン子育てサロン実施（3回/年）
11月	子育てわいわいネットワーク	イオン茨木にて子育てイベントを実施 新型コロナウイルスの対応により開催なし
R4.4～R5.3	民生児童委員協議会（福井）	福井公民館にて要援護者及び地域課題検討、情報交換等（1回/月）
R4.4～R5.3	民生児童委員協議会（西河原・耳原）	西河原コミセンにて情報交換等（1回/月）
R4.4～R5.3	民生児童委員協議会（太田）	太田公民館にて情報交換等（1回/月）
11月・1月	認知症サポーター養成講座	北陵中・福井高校にて認知症やCSWの活動、相談窓口について啓発
11月	認知症サポーター養成講座	追手門学院大学経済学部にて認知症や包括等相談窓口について啓発

※SN会議＝セーフティネット会議

#### IV 行事・イベント・クラブ

##### 全体行事

日時	行事名	内容
9/16	敬老会	祝い年の利用者様の表彰、写真撮影と職員による出し物を行いました。
10/25	秋祭り	職員による出し物と昔懐かしい出店を楽しんで頂きました。

新型コロナウイルスの対応により、ボランティアの受け入れを中止しました。

全体イベント・クラブ活動等

日時	イベント・クラブ名	内容
第1週 月 第3週 月	音楽療法	新型コロナウイルスの対応により中止しました。
第2金 第4火	喫茶 ひだまり	職員による喫茶コーナーを開設しました。
第3火	書道教室	職員による書道教室を実施しました。
第2火	ハーモニカ ボランティア	新型コロナウイルスの対応により中止しました。
第4金	俳句ボランティア	新型コロナウイルスの対応により中止しました。
第1火	詩吟教室	新型コロナウイルスの対応により中止しました。
各月	誕生日会	新型コロナウイルスの対応により中止しました。
随時	折り折り教室	新型コロナウイルスの対応により中止しました。
毎月1回	天兆園の日	各種のイベントと特別料理を提供しました。

その他、デイサービス・ショートステイの各フロアにおいて、作成（ミニレク）等のレクリエーションに取り組んでいます。コロナウイルスの対応により、外出や集団で行うレクリエーション等は中止しました。

V 研修・会議

【内部研修】

（全体）＝施設全体研修

（中堅）＝中堅職員研修

（指導）＝指導的職員研修

開催年月日	研修内容	講師	参加者の職種	参加人数
4/19	法令遵守について	永森相談員	全体	56
5/17	個人情報保護法	内山 CPC 所長		56
6/21	在宅介護のための 感染症予防	橋本看護師長		56
7/19	身体拘束について	リスク委員会		56
10/18	看取り	教育委員会	全体	56
12/20	身体拘束について	リスク委員会	全体	56
1/17	認知症ケア研修	尾上副主任	全体	56
1/17	非常災害研修	内山 CPC 所長		56
2/21	感染症 インフルエンザ	濱端看護副主任		56

3/21	高齢者虐待について	中澤センター長		56
------	-----------	---------	--	----

※ 本年度の研修については、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、資料回覧にて対応する。

### 【外部研修】

開催年月日	研修内容	主催	参加職種
8/13	対人援助専門職講座	大阪府社会福祉協議会	CSW
6月	VRを活用した認知症・発達障害研修	株) シルバーウッド	包括
7月	ファシリテーション研修	(株)ひとまち	包括
8月	地域包括ケア推進セミナー		包括
1月	優生保護法のこれまでとこれから	大阪弁護士会	包括
1/19	地域づくり加速化事業ブロック別研修	近畿厚生局	包括
1/21	チーム包括 つながろう！	大阪公立大学看護実践研究センター	包括
2/26	介護支援専門員スキルアップ勉強会	大阪介護支援専門員協会茨木支部	CM

会議名	開催日	参加職種
所属長会議	第3火	施設長・管理者・主任・副主任
教育委員会	第3火	生活相談員・介護職員・看護職員・介護支援専門員
リスクマネジメント委員会	第3火	介護職員・生活相談員・介護支援専門員・機能訓練指導員・ヘルパー・看護師
サービス向上委員会	第3火	生活相談員・介護職員・介護支援専門員 サービス提供責任者・機能訓練指導員
行事・ボランティア委員会	第2火	介護職員・介護支援専門員・事務職員 看護職員・機能訓練指導員
園芸委員会	第3火	介護職員・介護支援専門員・包括職員
広報委員会	適宜	介護職員・介護支援専門員・包括職員
感染対策委員会	第3火	施設長・看護職員・介護職員・介護支援専門員・包括職員
衛生委員会	第4金	施設長・産業医・衛生管理者・看護職員 事務職員

介護調整会議	不定期	介護役職職員・フロアリーダー
デイサービス フロアカンファレンス	第3火	介護職員・生活相談員・看護職員 機能訓練指導員
デイサービス ケアカンファレンス	第3火	介護職員・生活相談員・看護職員 機能訓練指導員・介護支援専門員
ショートステイ フロアカンファレンス ケアカンファレンス	第3月	介護職員・生活相談員・看護職員 機能訓練指導員
ヘルパー会議	毎月15日	管理者・サービス提供責任者・ヘルパー
包括支援センター会議	適宜	主任介護支援専門員・保健師・社会福祉士 介護支援専門員
ケアプランセンター 会議	毎週火曜日	介護支援専門員

## VI 苦情処理及び第三者委員

当施設・事業所では、サービスの向上、利用者の理解を深めるため、利用者からの相談又は苦情に対応する常設の窓口を施設内に置いて生活相談員又は管理者を苦情受付担当者とし、施設長を苦情解決責任者としています。

事業所毎にも苦情処理担当者を配置し、苦情が出た場合は必ず対応記録をとり、管理者と連絡をとりながらすみやかに対応していく体制になっています。また意見箱を1階下駄箱横・2階エレベーター横に設け、誰でも意見が出せるよう配慮しています。

苦情受付窓口担当者

事業所	窓口担当者	責任者
ショートステイ天兆園	川井 茂	角野 友哉
デイサービスセンター天兆園	永森 達志	
ヘルパーステーション天兆園	長谷中 小百合	
ケアプランセンターアイ	内山 暁子	
在宅介護支援センター天兆園	福隅 友美	
地域包括支援センター天兆園	中澤 亮子	

苦情に関しては、第三者委員として次のように定め苦情の内容に関しては定期的（4月、10月）に報告をしています。今期は上期2件、下期1件の報告を行い、伝達不足での内容が多かったですが、伝達のツールを利用する事で周知徹底を図っています。

第三者委員	中内 稔（あいあい福祉会 前理事長）
-------	--------------------

## VII リスクマネジメント委員会

### 1、事故防止

2022年度の事故報告件数は、下記の通りです。そのうち重大事故の件数（骨折、縫合が必要な外傷等で保険者に報告した事故）は、2件でした。



ショートステイ	65件 (0件)
デイサービス	57件 (2件)
ヘルパーステーション	0件 (0件)
ケアプランセンター	0件 (0件)
地域包括支援センター	0件 (0件)
合計	<u>122件 (2件)</u>

今後、事故が減少するように原因を検証・検討し対策を実施します。また、リスク委員と全職員に周知徹底をすると共に勉強会等も開催していきます。

## 2、 身体拘束廃止

家族の意向で送迎時ベルトを着用するケース 2件

現在、施設では身体拘束は行っていませんが、身体拘束につながる可能性のある場合の対応・記録の重要性について説明を重ね、「身体拘束等の適正化のための指針」及び「身体拘束マニュアル」の再確認と職種による認識の相違をなくすように周知徹底しています。

緊急でやむを得ない場合は、各部署や委員会・施設全体で検討し、やむを得ない場合のみ利用者に負担の少ない方法や時間帯で実施するように努力していきます。その後、解除に向けて検討を繰り返し、利用者の精神的苦痛も速やかに解除するようにしています。

今後、どんな状況でも身体拘束を行わないで介護ができるよう全員で実施していきます。高齢者虐待についても全職員が理解し利用者が快適に過ごしていただける様、努めていきます。

## 3、 虐待防止委員会

虐待ケース	2件
内訳	ネグレクト 1件
	経済・精神的 1件
虐待疑いケース	2件

虐待リスクのある利用者に関して、記録・介護支援専門員への報告、経過観察をおこなっている状況です。

虐待の可能性を含め、虐待防止に向けて意識づけと報告が適切に行っているようにリスク委員だけでなく、全職員の理解と対応を実施してけるように努めます。

# 2022 年度 事業報告

社会福祉法人 恭生会  
愛光認定こども園

## 2022年度事業報告

### 1, はじめに

2022年度もグループの「愛」と「和」を重んじ人権尊重の理念のもと子ども主体の教育と同時に保護者の就労の保証でもあります保育の両面を目指し、職員一丸となって取り組んで参りました。高槻市においては小規模保育園が数多く開園し、待機児童0をうたっておりますが、近年、地域に、マンション及び、戸建て住宅ができたことで、本園への入園希望は多く、夏頃より、毎日のように入園希望の園見学に来られる方が多く、50組を超えるご家庭が園見学に来られました。年度途中にも本園の入園を希望され、待機されている方がおられる状況でした。一方で、少子化の波を受けて高槻の地域によっては、定員割れをしている園もあり、今後は園の保育・教育理念、及び施設取り組み等を保護者が選び、「選ばれる園」「選ばれない園」との二極化が進むことも予想されます。そのため愛光認定こども園ならではの付加価値を今後高めていく必要があるように思われます。

2022年度は依然として新型コロナウイルスが収まることはなく、保護者参加型の行事や地域行事の参加は縮小を余儀なくされましたが、「できない」ではなく、その中でも「できること」を見つけ、職員間で協議し、園行事として主要である、運動会、作品展、発表会を開催し、またオンラインでのクラス懇談会の開催等、できるだけ保護者のニーズに寄り添った保育・教育に取り組んで参りました。

### 2, 園児数について

\*定員とクラス別年間在籍児童数の平均値

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員	9名	17名	19名	20名	22名	23名	110名
平均値	9名	18名	21名	25名	25名	23名	121名

#### 園児数の実績

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
4月	8名	18名	21名	25名	24名	23名	119名
5月	9名	18名	21名	25名	25名	23名	121名
6月	9名	18名	21名	25名	25名	23名	121名
7月	9名	18名	23名	25名	25名	23名	121名
8月	9名	18名	23名	25名	25名	23名	121名
9月	9名	18名	23名	25名	25名	23名	121名

10月	9名	18名	23名	25名	25名	23名	121名
11月	9名	18名	23名	25名	25名	23名	121名
12月	9名	18名	23名	25名	25名	23名	121名
1月	9名	18名	23名	25名	25名	23名	121名
2月	9名	18名	23名	25名	25名	23名	121名
3月	8名	18名	23名	25名	25名	23名	119名

### 3、 職員体制

園長	1名
主幹保育教諭	1名
指導保育教諭	2名
保育教諭（非常勤含む）	18名
事務	1名
看護師（非常勤）	3名
管理栄養士	1名
保育補助	6名
嘱託医（東和会病院小児科医）	1名
嘱託歯科医（田村歯科）	1名
薬剤師（東和会薬剤師）	1名

#### \*クラス担任数

0歳児 (りす)	1歳児 (うさぎ)	2歳児 (やぎ)	3歳児 (きりん)	4歳児 (くま)	5歳児 (ぞう)
4名	7名	6名	2名	2名	2名

- ・非常勤の保育教諭を特定のクラスに固定することで、クラス内の連携を密に保育の質を高たかめることができました。また外部への研修参加や、有給の取得も前年度より効果的に行うことできております。
- ・保育補助の職員はフリーとしてその日の職員数の状況に合わせてクラスに入り、補助を行うことができ、保育教諭の負担を減らすことができました。
- ・年度当初は人員が不足していましたが、求人活動を積極的に行うことで、2022年度は常勤・非常勤職員を計6名採用することができました。しかし2023年度以降を見通し、求人活動の整備化が必要であると考えます。

### 4、 教育・保育目標

- ・グループの理念でもある、「愛」と「和」を重んじ人権尊重、自分を大切に思い、人を大切にできる心を育てます。

- ・対話的なコミュニケーションの確立を目指したフィンランドメソッドに基づき、こども達ひとりひとりの対話や関りを大切にし、どの保育・教育場面を切り取ったとしても明確な「ねらい」「内容」が存在する保育・教育を心がけます。
- ・幼児期に育てたい10の姿を目標とし、行事のための保育・教育ではなくこども達が主体的に興味・関心ごとに没頭できる保育カリキュラムを作成しています。そして今後さらに多様化する価値観の中でも生きていくことができる「生きぬく力」の土台作りを行っていきます。

## 5、 具体的取組み

- ・施設内で職員研修を重ね、改めて「人権」について考える機会を作ると共に日頃の保育・教育面において人権に寄り添えているのか、守られているのかを振り返りました。その中で乳児期であっても食事の際に職員のペースで食事介助をするのではなく、乳児が口を開けてから介助する、鼻を拭く時には黙って拭くのではなく、「お鼻拭くね」と声をかけてから拭くようにする、トイレへ誘う際にはこれまでのように一斉に行くように声をかけるのではなく、ひとりひとりの排尿感覚や、トイレトレーニングに合わせた声掛けをするなどひとりひとりを大切にする保育を行ってきました。

また幼児期には絵本などを通してこども達が興味・関心を持っていることに取り組む、「テーマ遊び」を行い、その興味事を運動会や発表会、作品展等に取り入れることでこども達に無理のない、主体的な活動につなげることができました。日頃より取り組んでいることであるため、こどもたちが家庭で取り組み内容を保護者との会話の中で伝え、保育教諭と保護者との日常会話でも伝えたり、聞いたりすることで、内容が行事前だけではなく、継続的に伝わり、保護者への保育・教育の見える化にもつながりました。

### ・ 課外教室

	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
リトミック音楽	○	○	○	○
体操・体幹教室	体幹教室	体操教室	体操教室	体操教室
英語で遊ぼう	○	○	○	○
スイミング		9月からスタート	○	○

- ・課外教室は教育の更なる向上の為、専門講師による直接的指導です。また、更なる保育教諭の学びとなるように、改めて課外教室の取り組み内容や年間計画を講師の先生とも話し合うことができる場を設け、すすめることができました。

一方で、スイミング等は安全面という観点から次年度は4歳からの取り組みとなります。また2歳児の体幹教室（ピラティス）はクラス担任との関りやクラスでの取り組みを一層深めるため、廃止となります。

#### \*子育て支援事業について

##### ・障がい児保育

要配慮として高槻市より保育教諭の加配を認められているのは、5歳児3名2歳児1名であり、2歳配慮園児はコルネリアデレンゲ症候群・嚥下障害、胃ろうによる経管栄養が必要な園児です。医療ケア児対応には専属の看護師を一名クラスに配置し、医療的ケアだけでなく、クラス内でのインクルーシブ保育にも取り組んだ甲斐もあり、歩行が可能となりました。また本児の通っている療育施設、通所施設とも定期的に連携会議を本園で設け、本児の医療的なケアを包括的に進めることができいております。高槻市ではまだ、医療ケア児の保育は公立園のみでの受け入れとなり、私立園では充実していない現状です。今後進むとされる医療的ケア児対応については他園に比べ一歩先へと進んだ取り組みとなっており、医療と福祉施設を併せ持つ東和会グループの強みを活かしております。

##### ・土曜日、延長保育

土曜日保育に関しては年々利用者が増加傾向にあり、職員の配置も3名で対応できていましたが、4名は必要となる保育の申し込みがあり、土曜保育の需要は年々高まっております。

延長保育の利用者は、月平均がのべ200名を超えており、2021年度に比べコロナウイルスによる自粛期間がなくなったことにより、保護者の就労時間が大幅に増加したことが考えられます。

##### ・あいっこ広場（子育てサロン）

高槻市立庄所子育てすくすくセンターにご協力いただき月に一度のあいっこ広場を開催することができました。保育園や幼稚園に通われていないご家庭を対象に、保護者同士のお話の場を提供するもので、初めは少人数の参加でしたが、保護者の口コミが広がり、次第に人数が増え、あいっこ広場から本園の入園を希望されるご家庭もありました。次年度はすくすくの協力はなくなりますが、引き続き事業を継続し、園児の獲得につながればと考えております。

##### ・一時預かり事業

2022年度は一時預かりの利用は年間のべ250名となり、一日平均1人以上は利用した計算となります。在園児兄弟の利用者がほとんどであり、地域の子育て支援という形での利用は減少傾向にあるように思われます。

＊保護者支援・地域交流の取り組み

- ・毎月“あいこっこ”だよりとほけんだより及び給食だよりの発行だけでなくホームページの改編やInstagramのアカウント開設など、保護者へ向けて情報発信を積極的に行うことができました。
- ・委託医による健康相談を隔月に実施する為、保護者からの相談は多く信頼度もあり、受診するほどでもないけれど、相談できる窓口があることは働く保護者にとっては、安心に繋がります。
- ・今年度も前年度に続き、コロナ感染拡大の為、老人施設、地域交流、地域夏祭り等地域交流が中止となりました。
- ・社会福祉法人照治福祉会様との訪問型ボランティア事業であるホームスタートへも本園職員のビジターが年間3家庭訪問し、地域貢献に携わることができております。

＊守秘義務及び個人情報の取り扱いについて

- ・児童とその保護者に係る情報の守秘については、前年度同様、法人規定により全職員が誓約書を提出した上での職員指導を徹底しております。
- ・新たにホームページの改編及びSNSによる情報発信の際にコンプライアンスの観点より、保護者全家庭に写真掲載の承諾書を提出していただいております。承諾いただけなかった家庭の写真掲載は配慮するようしております。

6、年間行事

月	行事	月	行事
4月	入園・進級式・ お花見・こいのぼりフェスタ（中止）	10月	運動会・遠足・芋ほり 楽々園交流運動会（中止）
5月	遠足・参観クラス懇談 （ZOOMによる） 玉ねぎ堀り	11月	作品展 消防見学・サンガピア訪問 （中止）
6月	尿検査・歯科検診 親子歯みがき教室（中止） 個人懇談	12月	クリスマス会 餅つき 地域の老人会クリスマス会（中止）

7月	プール開き・七夕会(中止) 5歳キャンプ(場所変更) プラネタリウム見学 (中止)	1月	獅子舞い・年始の集まり 凧揚げ大会
8月	夏祭り(企画変更)・	2月	節分・生活発表会
9月	和朗園・楽々園老人会 (中止)・	3月	ひなまつり・お楽しみ会 卒園式・クラス懇談会

上記以外に毎月誕生日会・小児科健診・避難訓練を実施しています。  
・コロナ禍で外部の行

事は全面中止となりましたが、教育を止めないという意味において、園行事は感染防止を図り、密になる事を避け、行事自体のやり方を見直しました。結果子ども主体で成果を上げる事ができた事は職員の努力の上に成り立ちました。

・食育の取り組み

幼児組を中心に野菜を育て、食育活動に取り組んできました。コロナ禍であるため題材的に調理実習のような取り組みを行うことができませんでしたが新型コロナウイルス第8波以降開催の年長児のディキャンプではカレー作りを万全の感染対策を行いながら取り組むことができ、買い物から調理と連続した活動をすることができました。

7、避難訓練について

- ・毎月1回、年間計画に基づき火災・地震その他必要に応じた訓練を行う

実施日	内容	ねらい・目的
4月	園外の危険についての話し	避難経路の確認・保育教諭が子どもの生活を守る意識を高める
5月	避難訓練の話しを聞く	保育教諭の話しやDVDなどを見て、「お」「か」「し」「も」の約束を知る
6月	火災(消火器の使い方)	消火器の場所の確認
7月	災害発生時の避難訓練	災害時の役割の確認 避難経路の確認
8月	火災(小学校に避難)備蓄品の確認	小学校に非難するほどの大規模災害を想定した訓練 備蓄品の確認



9月	前期訓練のまとめ	乳児幼児の保育教諭に分かれてこれまでの避難訓練の振り返りを行う
10月	AEDの使い方 看護師指導	心肺停止の非常事態が発生した場合のAEDの使い方を学ぶ
11月	火災	慌てずに避難各自が放送を聞く
12月	地震	地震の避難の仕方を知る
1月	阪神大震災の話 を聞く	地震の怖さを知る。地震発生時の対応の確認
2月	火災	寒い時の避難を体験 防寒着や毛布等を分け合い暖をとる訓練
3月	まとめ	今までの訓練の再確認や事例を挙げて振り返り、次年度に繋ぐ

## 8、まとめ

2022年度においては引き続き、新型コロナウイルスへの感染対策の徹底が必要であり、施設全体の感染対策及び、職員の健康管理等配慮が必要な1年となりました。2歳児等の部分休園を行うなど、感染の影響はありましたが、園全体での休園等、クラスターの発生はありませんでした。

新型コロナウイルスへの配慮の1年とはなりましたが、その中でも社会福祉施設として「できること」を職員間で話し合い、保護者と園との連携を図ることを優先してきました。その結果、主要行事である、運動会、夏祭り、作品展、発表会は例年より縮小した計画ではありましたが、開催することができ、クラス懇談会等、5月はZOOMミーティングを用いて行い、コロナが終息し始めた3月には対面式の形で開催することができました。また少しでも園での様子を伝えるために、7月よりインスタグラムのアカウント開設し、年間60回情報を発信しており、ほぼ90%以上の家庭がアカウントをフォローしていただいております。

職員配置につきましては、年度当初職員の不足がありましたが、常勤・非常勤ともに少しずつ採用があり、合計6名の採用があったことで、保育・教育に幅を持たせることができるようになっております。しかし、これまで、求人活動等を積極的に行っておらず、養成学校等への連携を深め、実習生の受け入れ等は積極的に受け入れていく必要があるように思われます。その為にも、学校へ出向き、本園の法人としてのアピールを行う必要があると考えます。学校周りを重ねてい

くことで大阪成蹊大学とは連携校となり、2023年度は複数名実習生を受け入れることとなっております。

本園の保育・教育理念においては、今後も予測される、少子化の波を受けても保護者より「選んでもらえる園」「通いたい園」を目指し、愛光認定こども園ならではの、愛光認定こども園だけの付加価値をアピールし、また新たに見出す必要があると考えます。その為にも職員の質の向上を図り、「今までこんな保育・教育をしていたから今後も…」ではなく、これからの時代にどのような保育・教育が必要か園全体で考え、これまで取り組みも少なかった外部研修を積極的に参加するだけでなく、園内研修を重ね、職員一人一人がスキルアップをはかる必要があると考えます。そしてその上で、新しいことにチャレンジしていく姿勢を身につけていきたいと考えております。

# 2022年度 事業報告

社会福祉法人 恭生会  
和光認定こども園

## 2022年度事業報告

### 1. はじめに

グループの「愛」と「和」を重んじ人権尊重の理念のもと子ども主体の教育と同時に保護者の就労保証でもあります保育の両面を目指し、職員一丸となって取り組んで参りました。少子化と言われますが、本園への入園希望は多く、職員のモチベーションアップに繋がり、私たちは常に質の高い教職員の集団であると言う意識をもち、教育に向き合いました。また、新型コロナウイルス感染症拡大に対応しながら、子ども達の健康管理を第一と考え、働く保護者の、安心に繋がり仕事に集中できるよう、最大の努力を惜しみませんでした。この状況は少しずつ緩和に向かい、子ども達の生活習慣や活動に変化や改善が見え始めてきました。従来のかども園としての機能を果たし続け、日々の教育保育、そして行事への取り組みを工夫しながら、教育を止める事なく、また、保護者の就労を保証するという大前提のもと、質の高い保育内容の維持に努め、地域の子育てを支える拠点としても、重要な役割を果たしております。

### 2、園児数について

\*定員とクラス別年間在籍児童数の平均値

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
定員	9名	17名	19名	25名	22名	23名	110名
平均値	14名	18名	22名	32名	29名	25名	140名

#### 園児数の実績

1号認定14名含

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
4月	11名	18名	22名	32名	29名	25名	137名
5月	14名	18名	22名	32名	29名	25名	140名
6月	14名	18名	22名	32名	29名	25名	140名
7月	14名	18名	22名	32名	29名	25名	140名
8月	14名	18名	22名	32名	29名	25名	140名
9月	14名	18名	22名	32名	29名	25名	140名
10月	14名	18名	22名	32名	29名	25名	140名
11月	14名	18名	22名	32名	29名	25名	140名
12月	14名	18名	22名	32名	29名	25名	140名
1月	14名	18名	22名	32名	29名	25名	140名
2月	14名	17名	22名	32名	29名	25名	139名
3月	14名	17名	22名	32名	29名	25名	139名

### 3. 職員体制

園長	1名
主幹保育教諭	2名
指導保育教諭	2名
保育教諭（非常勤含む）	34名
事務	1名
看護師（非常勤）	3名
管理栄養士	1名
保育補助	10名
嘱託医（東和会病院小児科医）	1名
嘱託歯科医（田村歯科）	1名
薬剤師（東和会薬剤師）	1名

#### \*クラス担任数

0歳児 （すみれ）	1歳児 （たんぽぽ）	2歳児 （ひなぎく）	3歳児 （なのはな）	4歳児 （なでしこ）	5歳児 （ささゆり）
3名	3名	3名	2名	1名	1名

- ・クラス担任が有給休暇や研修出張の場合フリー保育教諭が、クラスを補う為、常に全クラスを把握している事が求められます。
- ・保育教諭はその仕事だけではなく、人としての在り方とその姿勢が問われ、保育教諭は専門職としての、日々の保育と教育の課題に気付き、必要な研修会に積極的に参加の予定をする中新型コロナウイルス感染拡大により、外部研修も中止やリモート研修に切り替わる事が多くなりました。しかしリモート研修を上手く利用することで、時間短縮や費用の削減ができるなどの利点は大きかったです。キャリアアップ研修等も経験年数を重ねた職員が順次進めて行き、日々の保育意識が変わってきました。

#### 4. 教育・保育目標

- ・グループの理念でもある、「愛」と「和」を重んじ人権尊重、自分を大切に思い人を大切にできる心を育てます。
- ・フィンランドメソッド教育を基本に「遊びと学び」が教育・保育の柱です。

子どもは遊びを通して成長して行きます。どれだけ遊びを経験し、「頭」「体」「指先」を使って、心を動かされたかが大切です。「学ぶ意欲を育てる」子どもの主体性を大切にしながら、保育教諭の働きかけは常に子どもに向けられています。

- ・教育のコンセプト上牧の自然を活用した、広い園庭での戸外あそびからの好奇心を育て絵本の読み聞かせによる 対話的コミュニケーションを重視した教育を取り入れています。

- ・幼児期において育みたい、思考力・判断力・表現力の基礎を育てます。

非認知能力を育て、主体性をもち生き生きと日々の遊びに熱中し、優しさを受け優しさを返せる人に育ち、社会性を身に付けながら成長していきます。

## 5. 具体的取組み

- ・0歳児から2歳児は「養護」を基本とした、心の安定から「安全安心」の保育

そして、この年齢の子どもは特に月齢による、成長の幅が大きく、同じ学年でも、4月生まれと3月生まれでは大きな差があります。その事を踏まえて、乳児保育を特化することにより、緩やかな成長曲線を描けるものと今後の成長に期待されるところであります。この独創的な保育が評価され、保護者からの信頼も得る事ができました。同時に園への理解と協力も得られ、この時期の子どもの成長には目を見張るものがありました。保護者の子育ての不安も取り除く材料にもなる事ができました。

また、3歳児から5歳児は子ども園としての、毎日4時間以上の教育の時間を確保し、遊びと学びを重視した保育計画を立て、縦割り保育にも力を入れ、結果子ども同士の刺激を受け、課題にぶつかると対話的解決策を見出し、その解決の難しさを経験しながら、年齢と精神的発達に合わせた社会性をも身に付ける事ができました。

- ・課外教室

	3歳児	4歳児	5歳児
リトミック音楽	○	○	○
英語		○	○
サッカー教室		○	○
菜園	○	○	○
かずあそび		○	○

- ・課外教室は教育の更なる向上の為、専門講師による直接的指導です。

また、保育教諭の学びともなり、保育の質を上げる事にも繋がっています。

実費となる為参加は希望制ですが、全員希望し保護者の熱心さが伝わります。

\*子育て支援事業について

・障がい児保育

要配慮として高槻市より保育教諭の加配を認められているのは、3歳児1名、4歳児3名1歳児1名

・医療的ケア児の受け入れ

4歳児気管支軟化症 1歳児上気道狭窄 痰吸入・経鼻栄養・酸素吸入を必要とする園児の受け入れ 看護師必置の為ベテラン非常勤看護師により受け入れ準備が整い現在に至っております。高槻市では医療ケア児の保育には遅れがあり、我が東和会グループ傘下のこども園としては、先陣を切った取り組みに、今後の医療・障がい児教育に働きかけ、障がいがある子もない子も共に育つインクルーシブ保育を目指し積極的な受け入れを考えています。

・延長保育

延長保育の利用者は、月平均 380 名（累計）月によりばらつきあり、保護者の就労が多様化してきたが、コロナ感染拡大の影響で延長利用者が減少にあった。在宅と言う働き方の変化にも、子どもの保育時間の変動はありました。今後保護者の働き方にも変化が予想される。

・園庭開放

一般の家庭の子どもと園児が共に、安心して遊べる場として、実施しています。コロナの影響を受け実施を控える事にもなりましたが、10月頃より少しずつ開始の方向へと進んでいきました。

・一時預かり事業

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	合計
4月		2名	6名			8名
5月	1名	4名	5名			10名
6月		4名	12名			16名
7月	2名	2名	8名			12名
8月	2名	2名	12名			16名
9月	3名	2名	12名	1名		18名
10月	3名	2名	12名			17名
11月	3名	4名	11名			18名
12月	3名	2名	12名			17名
1月	3名	2名	12名			17名
2月	3名	2名	12名			17名
3月	3名	2名	12名			17名

- ・一時預かり事業の推移（一般型・幼稚園型）

この事業は、仕事復帰を見据えた保護者の希望が多く0, 1, 2歳の利用が目立ちます。コロナ禍でも希望者が多く次年度に向けた保護者の子育て支援としても、大切な事業の一環です。

\*保護者支援・地域交流の取り組み

- ・毎月園だよりクラスだよりとほけんだより、給食だよりの発行
- ・委託医による健康相談 隔月に実施する為、保護者からの相談は多く信頼度も高い、受診するほどでもないけれど、相談できる窓口があることは働く保護者にとっては、安心に繋がります。
- ・今年度はコロナ感染拡大の為、老人施設。地域交流。地域夏祭り等全ての地域交流が中止となりました。

\*守秘義務及び個人情報の取り扱いについて

- ・児童とその保護者に係る情報の守秘については、法人規定により全職員が誓。約書を提出した上での職員指導を徹底しております

## 6、年間行事

月	行事	月	行事
4月	入園・進級式・ お花見・こいのぼりフェスタ（中止）	10月	運動会・遠足・芋ほり （企画変更）
5月	遠足・参観クラス懇談 （中止）	11月	作品展
6月	尿検査・歯科検診 親子歯みがき教室（中止） 個人懇談（中止）	12月	クリスマス会 餅つき・地域の老人会クリスマス会（中止）
7月	プール開き・七夕会 5歳キャンプ（場所変更） プラネタリウム見学 （9月に延期）	1月	年始の集まり（中止） 凧揚げ大会
8月	プール参観・夏祭り（企画変更）・	2月	節分・生活発表会・進級懇談会（中止）



9月	和朗園・老人会 (中止)・	3月	ひなまつり・お楽しみ会 卒園式
----	------------------	----	--------------------

上記以外に毎月誕生日会・小児科健診・

避難訓練を実施しています。

・コロナ禍で外部の行事は全面中止となりましたが、教育を止めないという意味において、園行事は感染防止を図り、密になる事を避け、行事自体のやり方を見直しました。結果子ども主体で成果を上げる事ができた事は職員の努力の上に成り立ちました。

・食育の取り組み

自園の畑で夏野菜（トマト・きゅうり・ゴーヤ）の成長観察をしました。

水やりや肥料、太陽の自然の恵みを受けて育つ姿を見る事で、食べ物の大切さが身についていきました。

毎月1回の食育会議で、給食業者とのメニューや内容また、アレルギーについて話し合い誤食を防ぎ、食に対する興味を高め「望ましい給食」をテーマに食の大切さを知る事ができました。

## 7、避難訓練について

・毎月1回、年間計画に基づき火災・地震その他必要に応じた訓練を行う

実施日	内容	ねらい・目的
4月	園外の危険についての話し	避難経路の確認・保育教諭が子どもの生活を守る意識を高める
5月	避難訓練の話しを聞く	保育教諭の話しやDVDなどを見て、「お」「か」「し」「も」の約束を知る
6月	火災（消火器の使い方）	消火器の場所の確認
7月	プールについて水難事故	水遊びやプールの危険性について知る 安全なプールの楽しみ方を学ぶ
8月	火災	指示を聞き落ち着いて避難し、保育士は避難経路の確認と役割の確認
9月	地震（防災頭巾を使用）	地震の避難の仕方を知り、落ち着いて行動する
10月	AEDの使い方 看護師指導	心肺停止の非常事態が発生した場合のAEDの使い方を学ぶ

11月	火災	慌てずに避難各自が放送を聞く
12月	地震	地震の避難の仕方を知る
1月	阪神大震災の話 を聞く	地震の怖さを知る。地震発生時の対応の確認
2月	火災	寒い時の避難を体験 防寒着や毛布等を分け合い暖をとる
3月	まとめ	今までの訓練の再確認や事例を挙げて振り返り、次年度に繋ぐ

- ・園児対象に警察官による、安全教室も今年は対面で始まりました。
- ・看護師による AED 講習や、水難事故や怪我の応急処置など全体研修として職員間で共有し、知識として学びました。

## 8、まとめ

コロナウイルス感染拡大により、ソーシャルディスタンスが身に付く、行事の取り組みをその都度感染状況に合わせてと言う事が求められ、ただ中止するのではないと言う流れができ、緊急事態宣言も以前のような深刻さは薄れ、こども園は社会的貢献度の高い保護者の子どもの保育を継続する事で、感染拡大には注意を図りながらとなってきました。最善の努力と工夫により、子ども主体の行事を組み立て行事や日々の保育の見直しの良い年にもなりました。

このことがしいては、子ども達の育ちに繋がっていき、現状と照らし合わせた工夫を重ね、自分で自分の遊びを広げて行く事を実現する事ができました。

\*考える力・伝える力を身に付けられる教育保育を目指す質の高い教職員の集団であることを自覚し自尊心自己有能感を身に付けられる子どもを育てます。

\*障がい児保育枠ではありますが、医療ケア児を民間のこども園が受け入れると言うケースが少ない中、看護師との連携を図り安全に進めて来ました。

なによりもその園児の成長は目を見張るものがあり、同年代の子ども同士の刺激が大きく作用しているものと、保護者と共に成長を確信し、今後の保育に繋がりたい。「障がい児保育」と一言では表現できないくらいに、医療ケア児に限らず子ども達が抱える課題も多様化してきております。どの保護者の願いも同じ

“普通の子と一緒に育てたい”の思いです。それぞれの成長に合わせた教育・保育を目指し、インクルーシブ保育を積極的に進め、子育て真っ只中の地域の皆さんに、寄り添い、地域に根ざしたこども園作りを今後も職員一丸となって取り組んで参ります。